

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1472900727
法人名	株式会社ミュー
事業所名	オーババーズセキ
訪問調査日	平成25年10月4日
評価確定日	平成26年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 25 年度

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900727	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	株式会社ミュー			
事業所名	オーババーズセキ			
所在地	(243-0031) 神奈川県厚木市戸室1-26-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
自己評価作成日	平成25年9月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月4日	
ユニット数	1ユニット			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成25年10月4日	評価機関 評価決定日	平成26年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>・このホームは、小田急線本厚木駅からバス15分、徒歩10分の住宅地の中にあり、外観はスタイリッシュな木造2階建てで、2階は有料老人ホームを併設しています。ホームは1階部分にあり、1ユニット9名の家庭的であったかいグループホームとなっています。経営母体は株式会社ミニューで、オーババーズセキを含め、厚木市内に住宅型有料老人ホームを5施設、デイサービスを2か所運営し、そして今年、小規模多機能型居宅介護とグループホーム(2ユニット)を11月にオープン予定とし、地域に密着した福祉サービスを展開しています。また、同系列の社会福祉法人が経営する保育園は40年以上の歴史を持ち、地域に根差しています。</p> <p>・皆が集うホームのリビングは、職員や家族の人達が持ち寄った季節の花が飾られ、2階の出窓から差し込む和やかな陽ざしを受け、温かい家庭的な雰囲気がホームにあります。法人全体で、朝11時になると、ホームではタオル体操を行ない、他の施設ではラジオ体操だったり、NHKの「今日の体操」の所もあり、朝の体操が一斉に始まります。毎日の日課となっており、ご利用者はすっかり覚え、曲に合わせて遅れることなくスタッフと全員で体操し、健康管理につながっています。</p> <p>・職員は定着率が高く、介助が難しくなった高齢の職員には、調理、洗濯、掃除、畑作業の仕事を設け、高齢でも継続できる職場環境を確保し、職員自ら申し出がない限り、在籍できる体制を整えています。よって、馴染みの職員、利用者、ご家族共に信頼関係が作り上げられています。</p> <p>・ホームの今年の目標は、「清潔感のある身だしなみ、昼夜のメリハリのある生活」を掲げ、毎朝職員が拭き掃除を実行しています。また、ホーム内で独自の内部監査を行ない、職場の「慣れ」への気付きを、他の事業所の職員が来訪し、年2回内部監査を実施しています。</p> <p>・毎月のイベントでは、今年で3回目になる演芸会が皆の楽しみの恒例行事となり、近隣の方々も参加して行われました。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	オーババーズセキ
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
	○	2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住まいの環境は変わっても、施設ではなく自分たちの地域での生活を継続していくことを目標に運営している。入居者、職員も地域の人たちが多く、情報の共有や共通意識を強く持ち生活していくことを目指している。	理念に基づき、「一人ひとりに合わせたケア。わがままの言える介護。今迄の生活の流れをそのままに。同性入浴介助。」を実践し、今年の年度目標では、「清潔感のある身なり。メリハリのある生活を大切にします。」を掲げ、職員は実行しています。管理者はケア会議の中で、“身なりの大切さ”を絶えず話し、職員に共有・認識を図り、実践につなげています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との交流は事業所が主体となっているが、その中で固有の関係性が生まれている。	法人として町内会に加入しています。地域のお祭りの際、子供神輿がホームの前を通る時はおひねりを渡す等、利用者も楽しみにしています。地域の文化会館で今年で3回目になる演芸会（8/17）を開催し、入居者・家族・職員と一緒にコーラス、カラオケ、ダンス、踊り等、地域の方も参加して頂いて開催しました。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別での認知症に関する相談や地域の小中学校の体験学習の援助等にも積極的に関わっている。また、運営推進委員会等の関わりの中でも認知症の理解を深めるための様々な取り組みに関して相談をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では入居者の状況報告や評価の報告を行っている。また、その内容についても深く話し合っている。自治会とは防災の連携や相互の援助方法について具体的な話し合いを繰り返し行っている。	運営推進会議は2か月に一度定期的で開催しています。市役所関係、地域包括から必ず何れか1名は参加して頂き、利用者の状況、行事毎の報告、職員の研修状況等を伝え、特に防災の件については、近隣との連携相互の援助方法を具体的に話し合い、繰り返し行っています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者が運営推進委員会に参加し、利用者の状況やサービスの取組みに関して話し合いを持っている。	厚木市の介護保険課とは、日頃の連絡事項で連絡を取り合い、研修案内を頂いたり、運営推進会議にも参加を頂く等、連携を図っています。今年11月に開設する小規模多機能型施設とグループホームでは、生活保護の方も受け入れ体制を整えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的実施し、職員の意識向上を図っている。また、利用者の尊厳に関して深く掘りさげ安全確保との関係を含めて常に話し合いを行っている。	身体拘束についての研修は定期的に行ない、手袋をしている利用者の方もいますが、ご家族に説明した上で了解を頂いています。言葉かけについては、安全上、ご利用者に注意をする事もありますが、その際、ご利用者は「叱ってくれてありがとう」という言葉を頂き、信頼関係が構築されています。また、言葉かけをする際は、一人ひとりの性格等を見極めながら配慮しています。玄関の鍵は施錠していません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の方の理解の延長上にある虐待の問題に関して、常に職員間でも話し合いをしている。特に事例を通しての研修を定期的に行い客観的な見地から事業所内を見つめるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学習に関しては管理者、計画作成担当者等が参加している。現在各制度の利用者はいないが、認知症においては必要なケースが発生することが予想されるために、関係の弁護士とも連携の準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の問い合わせから一貫して管理者が対応して、丁寧な説明と家族の不安解消や精神的な援助に力を注いでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は日常のコミュニケーションのなかで、できるだけ意見や要望を聞き取る努力を行い、それに関しての対応を共有していくよう心がけている。それによって要望などがより多く表せる関係性を築くことにつながると考えている。また、外部評価のアンケート等も有効に活用している。	日常的にご利用者やご家族の要望を聞くように心がけ、外部評価のアンケート結果も折に触れて意見を伺う機会を設けています。法人の室内運動会(10/23)を開催し、今年はチンドン屋さんの催しを行ない、後、ご家族との懇談会を予定して家族の意向を伺う機会を設けています。ホームでは、ご家族との関係を大切に、出来るだけご家族の意向を尊重するよう努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聞くケア会議や、月に2回の開催の代表者出席する業務会議等様々な機会を設けて、グループホームの運営や個別の対応に関する要望についても意見を述べる機会を設けている。	月2回の事業所会議、月1回のケア会議で、スタッフの意見を聞く機会を設けています。個人的な相談はその都度、管理者が対応しています。介護職の仕事が無理になってきた時、食事担当・洗濯担当・掃除担当・畑担当と仕事ができる部署を用意し、職員として在籍できるよう配慮する体制があります。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は特に職員とのコミュニケーションの場を多く設け、その個性や就業の関する状況、考えを聞いている。労務関係についても定期的な点検を行い、職員が生き生きと働ける場の提供を図っている。また、職員一人ひとりが行事等で役割を持って運営に関わる制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の定期的な研修の機会を多く設け、その都度、希望や力量に応じた参加の促しを行っている。また職員自身の興味や希望に応じ、ケア以外の見聞を広げるための研修の参加のシステムを備え積極的に参加を支援していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本グループホーム協会等の加盟や厚木市事業所連絡会参加等、様々な機会を通して情報の収集やケアの質を向上させるための機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談から本人の様子や不安に関して丁寧な聞き取りや数回にわたる面談を通して本人との信頼関係の構築に努力している。しかし本意での入居でない場合は入居後のフォローによって時間をかけての対応になるケースが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族支援に関しては管理者が相談業務を主に担当し、一環した支援を行っていく。入居前の相談から入居後の様々な対応も含めて認知症のケアに関しては家族との信頼関係が大変重要であることを管理者自身が大きく自覚を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応については本人と家族の問題を見極めるが順番を整理して一度の解決を図る場合ばかりではない。時間をかけて対応すべきものについても家族への説明を十分にしていこうように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに暮らす意識を失わないように、与え合う関係の構築に努力していく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションの中でそれぞれの立場を明確にして、支援の方向性を整理していくように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一方的な理念の押し付けでなく、本人の今日に至る経過を重んじて判断できるよう、努力していく。	利用者本人の希望を尊重して、ご家族・友人との関係維持を支援しています。近隣の入居者の方が多いこともあり、友人が頻繁に訪問されています。中には団体で面会に来られる方もあり、関係継続の支援に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を的確に判断して、その場に応じた対応ができるように常に話し合いを持っている。1日2回の申し送りに加えて。逐次情報共有の中で最善の関係性作りを図っていくよう努力が必要だと感じている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去や入院での退居後も家族との定期的なやり取りを継続していくよう努めている。また、家族も命日にセキを訪問してくれたり、良好な関係性を保っていると考える。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	グループホームでの生活の中でできる限り本人の生活理念を保つ努力をしている。ただ、共同生活でのストレスや環境変化のダメージが加わりやすい状況を考え、本人本意がどのくらい保っているか、常に自問しながら振り返る必要がある。	利用者本人の意向を大切にしながら、生活を支援して行くよう心がけ、ご利用者の表情から汲み取ることができるよう、日々スタッフは努力して研鑽しています。お風呂介助の際、本音の気持ちが聞けることもあり、少しの時間の会話も聞き漏らすことのない様、努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の歴史や家族の希望等できる限りの情報をもとに本人が何に馴染んできたのか等、考えるようにしているが、立案者の価値観が介入しないように客観的な情報整理に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活と言う特別な環境を考慮して、心身の状態やその方の持つ力の活用を評価し、実際の生活の中で、いかに反映させるべく提案ができるかと常に考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短い時間で変化のあるものと長期にわたって変わらないものを整理して、課題を抽出していくように心がけている。また、状況に応じたケアの方法をそれぞれの立場で提案できる環境を整えるようにしている。	課題とケアのあり方について、長期6か月、短期3か月に、その都度ご家族に協力を頂いて抽出に努めています。全スタッフがご利用者の状況を把握できるように取り組んでいるので、居室担当制は取っていません。緊急の用件等は、朝晩の申し送り時に話し合いをして共有を図っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の心身の状況をケア、医療、看護の立場で共有できる記録の方法を作り、それを基に2週間に1度のカンファレンスでの話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活が基盤になり、その時々生じる問題はすべて生活の中での工夫として解決すべきと捉えていく。サービスを利用してのニーズの対応という観点はなく、全て日常生活の延長での解決と捉えているために、特別な機能拡大の目標は持たない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用としては一つ共同生活としての関わりが主となり、個別の活用が優先されている状況がない。今後そのようなケースにおいては、積極的な活用によって地域での生活感がより多く感じられる場面を作り出すことが必要だと考える。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて主治医と家族、職員の話し合いの機会を設けている。その中で本人及び家族の意向の確認、連携を通して信頼関係の構築を図っている。	月2回往診医にて受診対応を行なっています。職員である看護師は、毎日巡回し、ご利用者の様子をチェックして健康管理を行なっています。入院先の医療機関と主治医との連絡についても、情報共有を図りながら、早期の退院支援を行なっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日巡回してくる看護師による観察と介護職員との情報共有により日常的な話し合いが持たれている。その中で定期的な受診以外の相談や観察が必要な状況については迅速な医療機関への連絡、対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に関しては全てにおいて家族と連携を図り支援を継続していく。入院先の医療機関と主治医との連絡についても常に取れていることを確認しながら、早期の退院支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りのケアについて十分な説明を行い、主治医や看護師との連携において不安のない様対応していく。ほとんどの人がグループホームでの看取りを希望し、逝去の際には入居者も共同生活者として穏やかに見送りに関わっている状況がある。	入居時に終末までのケアが実施可能であることを説明し、本人・ご家族の希望を聞くようにしています。ほとんどの入居者がホームでの看取りを希望されています。それによってかかりつけ医療機関とも緊急時や医療的な処置の方向性の確認を行っています。看取り介護は、当然のこととして管理者・職員共に共通認識が確立しており、看取りの経験もあり、ご利用者も皆さん玄関で穏やかに見送りを致します。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修による消防署の心肺蘇生法やAEDの使用方法を学習している。また、医務室看護師の指導により、日常的な応急手当に関して学習をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練や自治会における防災訓練参加により安全な避難に関しての訓練を行っている。また、施設の防災委員による定期的な安全点検とマニュアルの見直し、防災用品の点検を行っている。	防災訓練は定期的に行なっています。避難訓練時には、全員ロープの中に入りロープにつかまって避難するように誘導し、歩けない人は布帯で職員が背負って避難するよう訓練しています。このロープとおおい紐は事務所の目立つところに設置しています。ホームで委員を設置し、一次防災委員は近くに住居がある職員とし、二次防災委員は備蓄の確認防災用品の確認の役割を配備しています。また、ホームとして、地域の高齢者の避難場所に提供出来るよう提案をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴を基にその方の価値観を理解しようと努め、その中から個別の対応を作り上げるよう努力している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、個々の生活歴からその方の価値観の理解に努め、性格も加味して個別対応が出来るよう心がけています。排泄については、介助の必要な方も居ますが、その際は、プライバシーに配慮し、個人でトイレに行かれる方も多いです。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの方法を工夫し、本人言葉で希望や意向が聞きだせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課に支配されないケアを心がけている。ただ共同生活ゆえのルールも大切にしておくことがあり、その場面によって決定していくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で個性の発揮できる整容を心がけている。特に女性に関しては季節感、好みや気持ちの明るくなるような素敵なものを一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに積極的に関わられる人がいないが、おやつや配膳準備については職員とともに行うようにしている。	食事は、担当の職員が専門に担当しており、食材は宅配業者からメニューと共に下ごしらえした物が届き、その中で一品は必ず手作りの物を食卓へ出しています。野菜類は自社畑から自家製野菜が届きます。月に2~3回は特別メニューとしてサンドウィッチやお寿司などのお楽しみメニューも提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取に関しては、観察記録を行っている。また、看護師や主治医との連携により心身観察の大切な情報として位置づけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体の状態に応じた排泄の介助方法を検討している。また、昼夜の排泄の方法を変えることも含めて安全で清潔を保つ方法を提案している。	排泄チェック表は、毎日観察後の記入を行い、看護師と情報の共有を図っています。介助の必要な方は排泄表に記録を残しています。寝たきりの方はオムツ対応の為、2時間おきにチェックを行なっています。ご利用者のほとんどが自分でトイレを使用されて、足腰に不安の方は職員の手引きで支援し、トイレで排泄を行なっています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄コントロールに関しては、看護師、主治医と連携し、重大な身体状況に至らない様予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日常生活のペースを作るためにも大方の予定は決めているが、身体の状態に応じてその都度判断している。季節に応じた、入浴の行事も取り入れ、普段の個浴に味わえない楽しみを温泉旅行などの機会を設けることで対応している。	お風呂にはリフトが設置されています。2階の有料老人ホームに入居している方も使用し共有しています。週に2回は季節の菖蒲湯やゆず湯等お風呂を楽しんで頂いています。温泉旅行も3・11以降は泊まりではなく、日帰り温泉を楽しみ、湯河原か熱海で近場の温泉と、美味しいものを食べ、旅行気分を味わっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活の中でメリハリのある時間が過ごせるようにしているが、一人一人のペースにより休息や活動を組み立てていく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、職員が一人ひとりの服薬の内容、目的、経過観察について情報を共有している。また、その件に関しても逐次申し送るやカンファレンスで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設全体の行事参加やグループホームでの企画等様々な場面でそれぞれの個性を活かせる役割や場面を作って楽しむ機会としていくよう努力している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出や買い物は個別で対応することが多く、その日の天候等で判断している。そのほかの外出に関しては文化会館の催しや行楽等本人の希望により対応している。	外出は、天候等で判断しながら散歩や、近くの買い物(ご利用者のほしい物)や食事会、日帰り温泉等、様々に工夫をしながら、利用者に応じた参加を促しながら対応しています。玄関で外を眺めている人がいれば、声かけを行ない、一緒に外に出るようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と出きる力に合わせて家族と話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話や手紙のやり取りを行っている人はいないが、定期的に交流している保育園の園児たちとのやり取りを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節の花を飾り、清潔で寛げる空間を維持していくよう努力している。	共用のリビングは、天井近くに大きな窓があり、降り注ぐ採光により明るい空間になっています。外に出かけられない寝たきりの人にも季節が感じられるよう、生花(季節の花)を飾り目で楽しんで頂いています。毎朝、掃除担当の職員が拭き掃除を行ない、ご利用者が清潔に過ごせるよう努めています。また、無理のない節電にも努めエコ環境に努めています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所があり、リビングでも自由に過ごす場所を見つけられるようにしてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ち込み、それぞれが使いやすいように工夫された空間になっている。	居室内には、エアコン、ベッド、棚(ロフト)が用意されています。個人個人の好みや整理の仕方でも個性豊かな居室に整えられています。特に整理整頓に配慮し、本人が過ごし易い空間になるよう注意しています。また、朝・夕のメリハリを付ける為に日中と夜間の設えはきちんと区別するように配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いとはいえないが、身体で覚えた空間認識により安全に過ごせている。また、スタッフがいつも見えるところに位置していることから安全が確保しやすい環境をたもっている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

オーババーズセキ

作成日

平成25年10月4日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	管理者の交代を控えた 内容や質の担保	管理者の交代後も変わ らぬサービスの提供	確実な引継ぎの実施と 家族への説明。その後 の観察と支援の体制を 組織的に行うこと	3ヶ月
2	2	防災対策の徹底	認知症入居者の安全な 生活を確保する	日常的な訓練の実施と マニュアルの点検。地 域との連携の具体的な 方法の決定	6ヶ月
3	3	様々な場面の提供によ り日常生活に潤いを与 える	感性に働きかけるケア	様々な行事を通して感 性に響くアプローチを 行う。音楽や絵画、芸 術的な場面の提供によ り五感にアプローチす るケアの実施。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。